



大東亜戦争メモランダム300話を 俯瞰・総括し、日本の敗因に迫る

令和5年5月14日(土)

(公財)大東亜慰霊協理事長
山下輝男



○ 2025年 戦後80年

大東亜戦開戦から88年

(国力上無謀な戦いを挑んだ、軍が政治を壟断したと断じるだけで良いのか?)

- 戦後80年、日本は何を反省したのか
先の大戦の教訓は何か
日本人とは何だったのか
- 敗戦から学ぶもの多し



説明項目

- 1 持たざる国の国家戦略の適切性は？
- 2 国防方針は妥当だったのか？
- 3 政軍関係が歪では？
- 4 同盟戦略は適切だったか？
- 5 国家としての情勢分析の適切性は？
- 6 対米(英)感情と開戦決意
- 7 戦争指導計画の適切性は？
- 8 初期進攻後の戦争指導の破綻
- 9 戦争終結機会の捕捉は？
- 10 ドクトリン開発等柔軟性は？
- 11 日本の軍事組織の弱点は？
- 12 陸海軍の対立、解消し得ず？
- 13 政略？
- 14 国家のリーダーは？



視点1: 持たざる国の国家戦略

明確な国家戦略が確立されていたか？

1 日本の地政学的与件と戦略方向

大陸辺縁弧状列島、資源小国、四面環海、大洋
朝鮮半島は日本の脇腹に突きつけられた短刀
大陸とは無縁ではいられない宿命

戦略的方向性

- ①大陸に進出
- ②大洋に活路

2 持たざる国日本の昭和期の国家戦略の方向性(次図)

◎ WW I を受けての苦悩 国家総力戦を如何に戦う(次図)

- ① 日清・日露権益の維持・拡充
- ② 大東亜共栄圏構想の具体化
- ③ 国際協調により自活

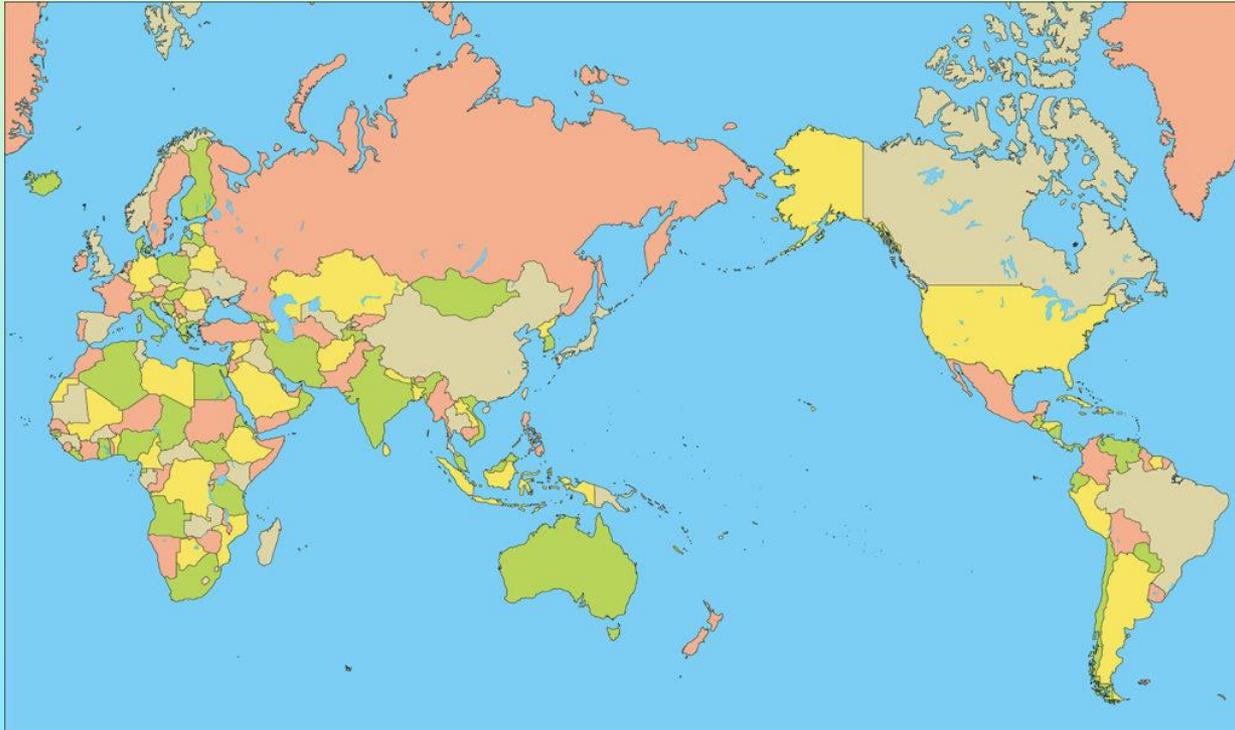


VG参考1-2

参考：地政学から見た日本の戦略全般

- ① 大陸国家と連携、進出
- ② 海洋立国を目指す 海洋国家との連携

日英同盟は日本に有益





VG1-1

- (1) 持たざる国日本の昭和期の国家戦略(生存・発展)の方向性
- a 資源等を海外に ⇒日清・日露の権益を拡充
 - b 足らざるを国民の勤勉さや優秀さ、精神力で自力補填
 - c 自らの生存を他国に委ねる(大なる国の属国的存在)
 - d 同盟・合従連衡策(何れかの国家(群)との連携強化等)

長期国家戦略は存在したか？

「日本の野望:中国侵略と世界征服」??

その証拠は、田中上奏文(5話参照)とされるが、実は明白な偽書

(*されど一旦刷り込まれたものは払拭困難!)



VG1-2

(2) WW I を受けての苦悩

WW1は総力戦、次期戦争は更なる総力戦

持たざる国日本が、国家総力戦を如何に戦うか？ 危機感！

- ① 海外権益を拡充し国力を増進
- ② 国家総動員体制の確立
(国家のリソースを集中)
- ③ 敵の態勢未完に乘じ速戦・即決により勝利
- ④ 圧倒的戦力を有する国と不戦(国際協調主義)

*** 戦うとすれば、
奇襲攻撃で戦意破砕
or 海外資源獲得し国力増進しつつ戦うの他なし**



視点2: 国防方針の妥当性等

(296 話)

◎ 帝国国防方針はあったが、明確な国家戦略文書はあったのか？

(参考: 安保3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画) R4年12月)

◎ 帝国国防方針 (M40、T7、T12、S11 (1936)4回改訂)

1936(S11):

6/3 国防方針

6/30 国策大綱(国策の基準)

8/7 外交方針

1940/7 /26 基本国策要綱(大東亜共栄圏建設を基本に)

◎ 陸海軍の戦力造成の根拠＝国防方針

- ・陸軍の悲劇 対ソ準備した軍を南方戦線転用
- ・海軍の愚 伝統的邀撃帯構想を放擲して短期決戦追及



VG2-1

296話

(1) 改訂国防方針の概要等

背景：ソ連極東軍の増強、海軍無条約時代に
国防国策の検討が必須

「帝国の国防は帝国国防の本義に鑑み我と衝突の可能性大にして且つ強大なる国力殊に武備を有する米国、露西亞を目標とし併せて支那英国に備ふ」(陸海軍の主張妥協)

国防国策(国策の基準)

目標：「東亜ノ安定勢力トナリテ東洋ノ平和ヲ確保シ世界人類ノ安寧福祉
ニ乗献シテ慈ニ輩国ノ理想ヲ巖現スルニアリ

当面の日本の国策

「東亜大陸ニ於ケル帝国ノ地歩ヲ確保スルト共ニ
南方海洋ニ進出発展スルニ在リ」



VG2-2

(2) 国防方針の問題点は何か

- ①国家戦略を前提にすべきであるにもかかわらず
- ②文書策定を、軍部が積極的に主導
- ③短期決戦・対一国戦想定
- ④対支、対露、対米英の三正面(脅威)対処？
- ⑤陸海軍の思惑優先、妥協、総花的
- ⑥政戦略の一致が次第に希薄化
- ⑦長期的視点？



視点3: 政軍関係が歪

(21,205,210話)

問題認識

- 日清・日露戦争の際には政軍関係は良好
- 昭和期の戦争に際はどうだったのか
- ◎ 明治システムの成功体験の呪縛・盲信
⇒修正も変更も出来ず

問題点

① 統帥権の独立

(戦争指導組織 (大本営、連絡会議、最高戦争指導会議))

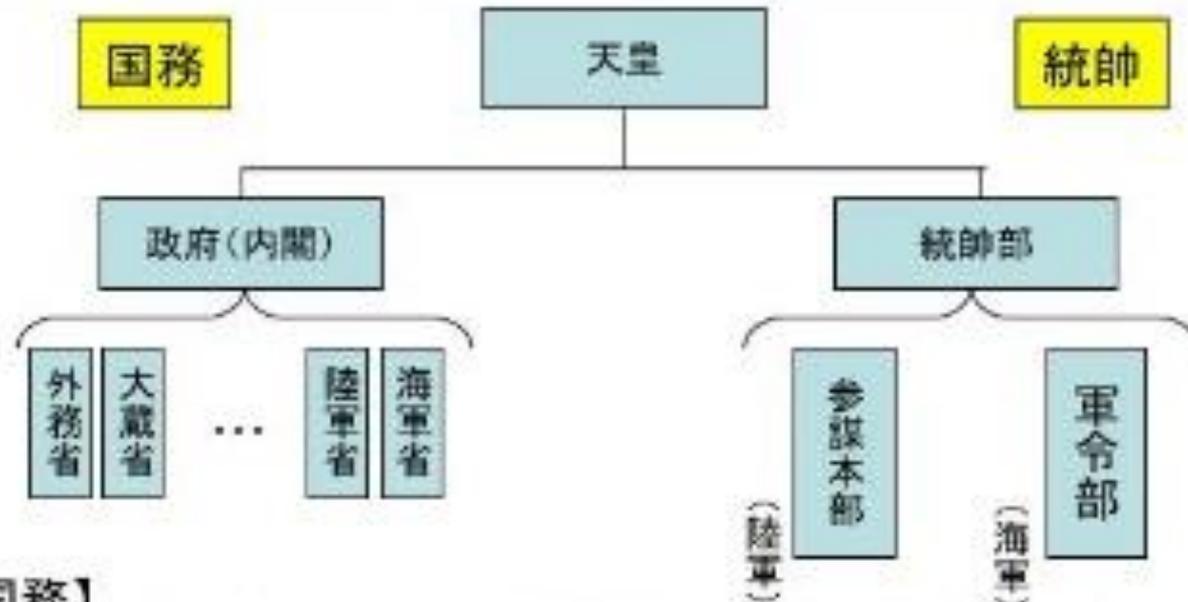
② 軍部大臣武官制

③ 内閣制度



VG3-1(全般)

政府・軍部の組織構成



【国務】

陸軍省・海軍省……軍政(組織編成、予算、人事等)を担当。

【統帥】

参謀本部・軍令部……軍令(作戦立案、作戦実施)を担当。



VG3-2

(1) 統帥権(欽定憲法11条) (平戦時を問わず政府の輔弼の外)

◎戦時等の戦争指導組織

大本営＝戦時または事変に際し必要に応じ設けられる戦時機関

日清、日露、支那事変・大東亜戦争

統帥機関で、国務から独立し、政府の輔弼の外

◎ 大本営設置(1937/11/20)

第一回の御前会議、大本営政府連絡会議(1937/11/24)

統帥と国務の緊密な連絡協調→**政戦両略の一致に**

◎ 大本営政府連絡会議

陸海軍大臣は大本営の一員となるも首相は蚊帳の外

⇒政府大本営の協議体創設(近衛内閣)

◎ 最高戦争指導会議(1944/8/4)





VG3-3

(2) 軍部大臣武官制

1900 現役武官制

1903 非現役でも可

1936 現役武官制復活(二・二六事件関与疑われた
将官の大臣就任阻止)

内閣の不成立や倒閣事例
脅迫の手段ともなった
陸軍大臣が常に争点

(3) 内閣総理大臣も国務各大臣の一人として他の国務大臣と同格

(4) 問題点

- ・システム上は
- ・政治も軍事も解る指導者の不在

◎クラウゼヴィッツの名言

「戦争とは、異なる手段をもって継続される政治に他ならない。」





視点4: 同盟戦略は適切だったのか

(102,182,192話)

◎日英同盟廃止(1923/8/17)後の同盟対象国は？ 米(英)、蘇、独、中

①米英は？

②ソ連は

国防方針との関係

軍縮条約等

対日政策

* 以上の観点から同盟国家足り得ない

③中華民国との和解提携の可能性は

・日本の支那事変不拡大が失敗したのは何故か？

第二次上海事変(1937/8/13～)で支那事変が中支に拡大

第二次上海事変: 独の支援を受けて近代化された中国(国民党)軍が、
上海租界地に奇襲的に攻撃

・中国の対日不信



VG4-1

(192話)

結局同盟・連携するとすれば消去法で独のみ

その独はいかなる国だったのか

- ◎ 中独合作により経済的軍事的支援を中国に
- ◎ 日本は第二次上海事変で4万名の戦死傷者、大苦戦
この原因は、
「中独合作」により独の軍事経済的支援
軍事改革後押し、軍備拡張推進、上海租界地攻撃進言
8個師団は独式に訓練

日本：上海は海軍の警備担任、
海軍の増派要請により戦力逐次投入
海軍は渡洋爆撃敢行、10/26 上海制圧



VG4-2

◎ 独との同盟の適否は

- ・日独伊三国同盟の締結について
独ソ不可侵条約(1939/8/23)によって一旦消えた(頓挫)ものが復活して締結(1940/9/27)=NRPであった。

「バスに乗り遅れるな」の風潮

(独の快進撃:1940/6 パリ陥落、対英上陸?)

- ・近衛首相や松岡外相 米国牽制のため推進
陸軍は対ソ牽制上推進
海軍も軟化
- ・独ソ戦開始
- ・陸軍は北方問題解決の好機
- ・国策再検討 北進、南進、南北準備陣⇒熟柿北攻、好機南進



VG4-3

(34話)

何が問題だったのか？

ヒットラーの独は信頼するにたる同盟国たりしか？

第二次上海事変(1937/8/13)然り

独ソ不可侵条約(1939/8/23) 然り

(独は背後の安全確保し西方進攻)

独対ソ奇襲攻撃開始(1941/6/22)

(独は二正面作戦の愚は犯さないと判断し)

日本は独にのめり込み過ぎ

特に陸軍の独傾斜(普に学ぶ陸軍、メッケル、留学)

軍同士の戦略調整全くなし

同盟による戦略調整は？

- ・密接な戦略調整なし(連合国との大なる相違！)
- ・実質的な軍事的連携なし(ロンメル of 敗退で幻とも)
- ・遣独潜水艦のみ

* 日本に主導権なく、国際情勢に翻弄

* 日英同盟(1902～1923)は日本にも益



視点5: 国家としての情勢分析は適切だったのか

(125, 156, 227話)

対象国等に関する情勢分析

- 欧州情勢は複雑怪奇と平沼内閣総辞職(1939/8/28) 自らの稚拙さを露呈
- 米国の参戦防止策はなかりしか? 米英可分・不可分論争etc
- 三正面对処戦争の無謀さ
- 知米派多数存在 排除、知見の活用なし
- 内閣情報室創設(1940/12/6)



VG5-1

(1) 米国に関する情勢分析について

- ◎ 米国第一主義(モンロー主義、孤立主義)の根強さ
ロンドン空爆後でも欧州戦非介入 80%以上
FDRの三選公約、当選(1940/11/5) 欧州の戦争には介入せず
アメリカ第一主義委員会の創設
 - ◎日本の真珠湾奇襲により第一委員会の運動消滅
 - ◎FDRの宣戦はしないが、戦争はするとの苦肉の策
 - ◎米英可分・不可分論争ある(海軍は不可分、陸軍は可分)も、認識の一致共有なし
- * 戦争宿命論と冷静な戦略分析**



VG5-2

(2) 国家情報機関は？

内閣情報局創設(1940/12/6)

第二次近衛内閣

内閣情報部を局に、各省所管の情報・宣伝事務の
一切を一本化

- 縦割り意識強く統合不十分
- 結果的に謀略宣伝がメイン

◎ 急に組織を統合してもうまく機能するはずなし
(文化の差、勢力争い、派閥?)



視点6 対米(英)感情と開戦決意

(309話)

国民感情は国策に如何なる影響を与えるのか？
その変遷は？

- 1 英米協調路線 1920年代までは 英米協調が基軸
- 2 英米に対する不満の蓄積
人種差別撤廃案の否決、排日移民法、軍縮条約の不平等強要
満州事変リットン調査団対日干渉
- 3 支那事変の中支への拡大に伴い対英感情の転換
天津租界封鎖事件 ⇒反英大会頻繁開催
対米感情は抑制的 パネー号事件、アストリア号による遺骨環送
日米通商航海条約破棄通告や援蒋問題はあったが・・
- 4 日米交渉の不調と米国の対日制裁
独の快進撃や同盟締結等⇔日米交渉の不調
マスコミの対米英報道強硬に

* 国策と国民感情 相互にシンクロして開戦決意の一因に



視点7: 戦争指導計画の適切性は

(25,59,87,96,125,180,185,215,222,250話)

戦争指導計画

唯一の計画: 「対米英蘭戦終末促進に関する腹案
(1941/11/5 連絡会議決定)

◎腹案の概要

南方要域攻略・自存自衛 [蔣政権屈服](#) (VG6-2)
独伊との連携で英の屈服→米の継戦意思喪失
長期持久態勢 あらゆる手段で米海軍誘致撃滅

腹案が依拠せる秋丸機関の研究結果

英米合作経済抗戦力調査 (1941/7)

[何が問題か？](#)



VG7-1

問題点の所在は

- ◎ 唯一の戦争指導計画ではあったが...
 - ① 天皇の裁可なく、強制力・権威なし
 - ② 独の戦勝に過度に依存
 - ③ 日米戦開始直前の策定 準備不足
 - ④ 支那問題の益々の泥沼化 対支一撃論の盲信
 - ⑤ 長期持久態勢の構築準備不足
 - ⑥ 独との連携なく、英の屈服なし、インド洋作戦の中途半端
 - ⑦ 特務機関の運用 軍事作戦寄与？戦争目的寄与？
勿体なかった！
 - ⑧ 軍政 諸国を味方につけるような方法・方策は
政略指導大綱の策定遅し(1943/5)
 - ⑨ 米国を覚醒させた 米英可分の追求できず



VG7-2

問題点1： 支那問題を解決し得ず(腹案の肝)

①数多の和平交渉不成就(185話)

対支：船津、トラウトマン、汪精衛、孔祥熙、スチュアート、桐工作、米

日米交渉：日米諒解案、日米首脳会談、対米交渉甲乙案、暫定協定案

②戦略の大転換できず(188話) 思いとは裏腹に泥沼化

対支一撃論奏功せず、蒋介石政権の戦意判断誤り、

腹が座っていなかった？

好機あるも和平条件の吊り上げ

不拡大方針の不徹底 政府、大本營の責任

③支那からの撤退決断できず(59話)

④連合国の思惑にさせられた！(日本に多正面作戦を強制)

援蔣ルートにより支援継続

⑤日清・日露戦争の「十万の英霊、二十億の国帑」を無にし得ぬ！

⑥暴支膺懲の世論高揚



VG7-3

問題点2； 独との軍事的連携等 『中東で日独の軍事的接続』

- ・独の北アフリカ作戦　ロンメル敗退で挫折
（1942/7）
（作戦目的は伊の支援であり、中東接続は？）
- ・日本のインド洋作戦
セイロン海戦で勝利するも機動部隊転用し
中途半端
- ・インド独立運動の支援により英国に圧力
（インパール失敗）



VG7-5

問題点3 進軍限界の無視 拡大しすぎた戦面
(計画の問題ではないかも知れぬが、..)

問題点4: 暗黙の戦域分担

問題点5 十分に詰められた計画だったか？

文言妥協 日本的問題解決法
徹底的な議論を嫌う傾向？



VG7-4

(66話、293話、254話、180話)

問題点6： 特務機関の運用と軍政等

○特務機関の多数運用

陸軍の特殊任務実働グループ

合計二十数個の特務機関を運用

東南アジア：南、F、岩畔、光、ペナン
安、西原、その他

○占領地域の軍政等

政略指導大綱の策定(1943/5)：遅い

関係諸国と日本の関係

好意的発展に



視点8: 初期進攻作戦後の戦争指導の破綻

(92,190話)

◎ 当初の戦争指導構想

初期進攻後に、長期持久態勢の確立 戦略守勢への移行
初期進攻作戦後の進出域(1942年夏頃) 次図

◎ 初期進攻作戦後の戦争指導構想の案

- ・当初の構想通りに戦略守勢に移行
- or・初期作戦の戦果を拡張

◎ 陸海軍対立

陸軍: 当初案の通り

海軍: 戦果拡張 軍令部=豪州方面占領、邀撃態勢確立
連合艦隊=中部太平洋早期決戦

◎ 今後採るべき戦争指導の大綱(1942/3/7)

陸海軍の意見調整の結果

「既得の戦果を拡充し」「長期不敗の態勢を整えつつ」と妥協的文言

* 理解不能! どうしたいのか?

何が問題だったのか



赤線:最大進出線(1942年夏)



VG8-1

問題は、結局文言上の妥協に堕し、戦争指導が混迷

海軍はMI作戦に邁進し、大惨敗 戦局の転回点

- ◎ 結果的に長期持久態勢が構築できなかった。
 - ・重要資源の確保 ・内地への環送 ・重要資源帯の防衛
 - ・現地国との連携・協力態勢構築等

では、望ましき戦略守勢態勢とは

早い段階から絶対国防圏(1943/9/30御前会議決定)を要塞化
→戦争の様相は異なっていた筈

絶対国防圏図 次図

(戦術論で云う必成目標、最終確保地域は何だったのか?)

- 何故?
- ・開戦当初の快進撃で傲慢に、過信に、米軍侮蔑とも
 - ・声望大なる者に引き摺られた。
 - ・堅確な戦争指導計画ではなかった。
 - ・海軍には防勢概念なし?



絶対国防圏図





VG8-2

◎長期持久態勢の構築は出来たのか

- ①重要資源確保 概ね達成 開戦二年目には360万^{リットル}(パレンバン)
(162話 石油確保へ軍・官・民の協力)
- ②内地への環送 潜水艦や敵機の攻撃により思うに任せず
(115話 お粗末なシーレーン防衛
護衛隊創設遅く、質量ともにお粗末 海軍は短期決戦により
勝利すれば問題なしと判断)
- ③防空 不十分
- ④陸軍南方燃料廠等の創設 油田の復旧もでき、最盛期には23000名
- ⑤軍官民三者連携 完全とはいかず



視点9: 戦争終結機会の捕捉は？

(45,204,225,278話)

戦争の常道: 戦いを有利な条件・態勢で止めるかを模索する

- 1 終末構想の概要
- 2 様々な終戦工作・研究
- 3 ソ連仲介和平案の奇怪さ
- 4 幸福な(?)終戦を迎えられたのは？



VG9-1

1 終末構想の概要

- ◎当初の終末構想は
英国及び蔣政権との個別的な講和追及
米国との条件付き講和
このために、連合国のSLOC破壊作戦、独との中東での連携
(対ソ、対支補給路遮断)、ビルマルート遮断、
重慶政権圧迫と対支和平工作

- ◎防勢作戦(軍事的に勝利し得ない戦争)における終戦機会の捕捉
連合国の連携の乱れをついた条件付き講和
和平機会の捕捉を狙った条件作爲的「一撃和平」

- ◎様々な終戦工作
燕京大学長・周仏海ルート、今井参謀副長ルート、駐日スウェーデン
公使、スイス(アレン・ダレス)

- ◎海軍の終戦研究
高木惣吉少将



VG9-2

(2) 様々な終戦工作・研究

- * 真剣に模索し始めたのは戦局不利になってから
遅いのでは？

- ア 様々な終戦工作
燕京大学長・周仏海ルート、今井参謀副長ルート、
駐日スウェーデン公使、
スイス(アレン・ダレス)

- イ 海軍の終戦研究
高木惣吉少将

- ウ 陸軍の終戦研究
陸軍は頑迷固陋だったのか？
次図



VG9-2-2

ウ 陸軍の終戦研究(278話)

- 戦争指導班(戦争指導課)
- 天皇の戦争終結の意向を受け研究開始(1943/3/25)
 - 作戦課とは異なる計画
 - 長期戦争指導要綱(案)→「大東亜戦争終末方策」(1943/8.9)
 - 伊降伏、独の戦況悪化、米軍の反攻急 腹案構想の破綻

- 9月案は、日本の単独・早期講和企図、自主的終結を目標
悲観的戦況推移、講和条件も俎上に、対ソ譲歩案も、
陸軍上層部へ報告

- 対米一撃論により終戦を有利に
 - ソの対日参戦の可能性が低いうちに対米決戦で機を掴み、大本営・政府の認識統一、天皇の裁可を得るとの案。
 - 陸軍内では少数派だが、それ以外と密接な連携



VG9-3

(3) ソ連仲介和平案の奇怪さ(45話)

(日ソ中立条約の締結:1941/4/13)

- ・ 腹案 独ソ講和、枢軸国への引入れ
- ・ サイパン陥落(1944/7/5)以降活発化
岸、近衛、一部の皇族、吉田茂等
近衛上奏文(2月)、ヤルタ会談(2月ソ連参戦決定済み))
中立条約不延長通告(4月)、鈴木貫太郎内閣(終戦工作任務)、
独の降伏(5/7), 最高戦争指導会議(ソ連和平斡旋決定5/9),
御前会議(本土決戦決定)、天皇終戦工作指示(6/22),
広田元首相・マリク駐日大使会談
ソ連への特使派遣決定(7/10) 広田・マリク会談(7/29)
ソ連対日参戦布告(8/8)
- ・ ソ連仲介案は無理との情報あるも、日ソ中立条約の有効性を信じた？
- ・ 仲介を期待しうる大国もなく、他に方法はなかった？



VG9-4

(4) 幸福な(?)終戦を迎えられたのは?(225話)

◎ 天皇の御聖断(1945/8/10)

◎ 和平条件の引き下げ 国体護持

「敗者が自己の中核的価値を傷つけられないと感じれば戦いを止める決断をする。」と指摘する研究者あり

◎ 日本軍の敢闘精神、烈々たる殉国の想い

◎ 戦争相手国とのチャンネルの維持
グルー大使等の知日派、穏健派

FDRの無条件降伏要求を如何に評価する？



視点10:ドクトリン開発等柔軟性は

- 1 空母機動部隊の創設と運用(262話)
 - 2 島嶼を巡る戦い(日:陸海協同、海軍陸戦隊、米:海兵隊の創設と運用)
 - 3 大艦巨砲主義からの転換(19話)
 - 4 航空部隊の協同、統一指揮、独立(279話)
 - 5 基地航空部隊の活用(116話)
 - 6 空挺部隊の挺進行動(57話)
 - 7 潜水艦の運用について
 - 8 戦略爆撃(307話)
 - 9 渡洋上陸作戦
- ◎ 日本の発想力は是とするも、実現力には日米の差を感じる。
◎ 大規模組織化・システム化の差



VG10-1

Q1 空母機動部隊の創設と運用(262話)

1 第一航空艦隊の創設

空飛ぶ水雷戦隊 ⇒ 航空艦隊(1940/4/10)

第一、第二、第四の3個戦隊
各戦隊 空母二隻、駆逐隊

◎真珠湾奇襲

◎MI作戦までは大戦果を挙げ、損害微小

2 MI作戦以後

日本の運用技術を学んだ米国の圧倒的戦力の前に頹勢を強いられる

3 史上初の空母機動部隊の決戦 珊瑚海海戦(1942/5/4~8)

戦術的には日本の勝利なるも、戦略的には失敗



VG10-1-2

日米空母数の推移（太平洋戦域）



日本は、空母数が多い時期を活かせなかったのではないか？
戦勢を支配できたのではと悔やまれる。



VG10-2

Q2 島嶼を巡る戦い(日:陸海協同、海軍陸戦隊、米:海兵隊の創設と運用)

1 海軍陸戦隊 (日本)

海軍の指揮下

- ・陸戦隊 臨時の陸上戦闘部隊
- ・特別陸戦隊 常設の陸戦隊

○上海海軍特別陸戦隊

呉鎮守府第101特別陸戦隊(特殊部隊)

海軍根拠地隊(広義の陸戦隊)

2 米海兵隊 (米国)

太平洋方面を担当する海軍 大規模な地上兵力なく単独で戦う羽目
海軍長官の指揮下にあった海兵隊を大統領直属の合衆国艦隊の指揮下
陸軍の反対を押し切って海兵師団を創設

敵前強行上陸を主体とする作戦展開を研究
海兵航空団、海兵隊独自の戦闘車両を始めとする装備の研究
水陸両用軍団として参加

ガ島、タラワ環礁、サイパン、ペリリュー、硫黄島、沖縄戦



VG10-3

Q3 大艦巨砲主義からの転換(19話)

◎ 大艦巨砲主義

WW1 弩級、超弩級戦艦艦隊の有効性認識 (大艦巨砲主義)
戦艦主役、航空母艦は脇役

◎日本 日露戦の勝利、太平洋に回航する米戦艦の主砲40cmとして それを上回る大和型戦艦を建造

◎開戦劈頭

- ・ マレー沖海戦 基地航空部隊の攻撃により
英東洋艦隊の新鋭艦プリンスオブウエルズ、レパルスを撃沈
- ・ 真珠湾奇襲 空母艦載機による太平洋艦隊の撃破

◎航空主兵論が台頭するも

大和型三番艦の建造も継続、空母への改造決定1942/7



VG10-4

Q4 航空部隊の協同、統一指揮、独立(279話)

- 1 WW II 独立空軍保有国 英、伊、仏、独
- 2 帝国陸海軍の航空運用
陸軍:地上作戦支援・協力
海軍:戦艦主砲の着弾観測、戦艦の制空援護
一部に航空主兵論あるも
- 3 大東亜戦前に 空軍独立の契機3回あるも、海軍の反対で消えた
- 4 初期進攻作戦時には協同はスムーズ、
航空兵力の役割・重要性を世界は痛感
- 5 防勢段階で指揮の統一主張あるも海軍の反対
マリアナ失陥後の捷号作戦 決戦兵力は航空兵力との認識共有
なれど、航空戦力の集中統合発揮は出来ず
一部において指揮の統一あるも、陸海航空の協同が主

航空機の性能・訓練上の問題もあり、飲み込まれることを嫌い



VG10-5

Q5 基地航空部隊の活用(116話)

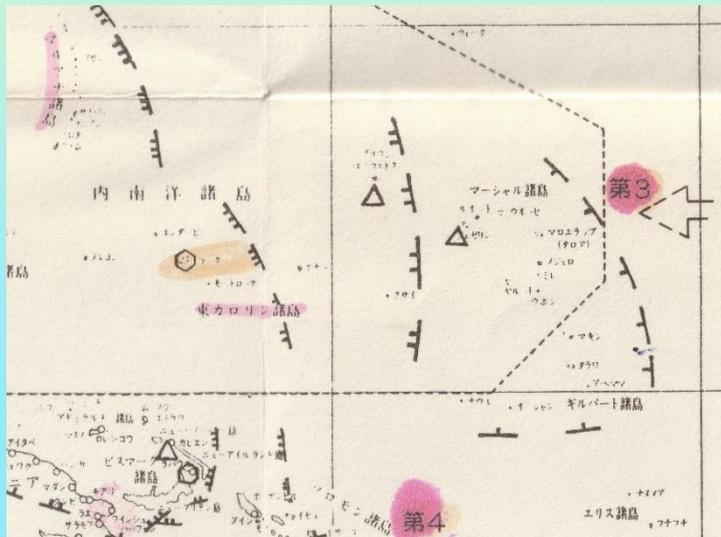
基地航空部隊の活用

◎海軍の邀撃帯構想

海軍第三段作戦 1943/3/25

連合艦隊のZ作戦要領、邀撃帯設定要領発令

前進根拠地を中核とし、三線の縦深を有する航空基地群で構成



左図: 第三邀撃帯

トラック: 前進根拠地

マーシャル、ブラウン、
マリアナを基地群

必要かつ十分な航空打撃力は
不沈空母化は
相互支援は
後方支援は



VG10-6

Q6 空挺部隊の挺進行動(57話)

1 空の神兵 (空挺部隊・挺進部隊)

WWⅡ初期の独空挺部隊の活躍に刺激を受けた陸軍は研究開始
1941/11/5 教導挺進第一連隊
1941/12/4 第一挺進団
1942/2/14 パレンバン空挺作戦敢行
1944/11末 第一挺進集団

専ら飛行場襲撃航空機爆破に任じた

2 海軍の場合

海軍鎮守府の常設の陸戦隊をパラシュート部隊に
横須賀鎮守府の第一特別陸戦隊
1942/1 メナド(セレベス島)降下作戦
(直上降下で損害大なるも成功)

* 日本軍として初の空挺降下作戦であったが、小規模
であり、陸軍との軋轢回避のため発表遅らす



VG10-7

Q7 潜水艦の運用について

◎日本の潜水艦の保有状況(当初64+116隻)vs米=317隻

この潜水艦を如何に運用するか
(通商破壊・防護 or 補助戦力として敵艦攻撃)

日本は敵艦攻撃に使用 が、米軍の警戒厳しく成果小

◎日本の潜水艦は優秀(決して見劣りすることなしと)

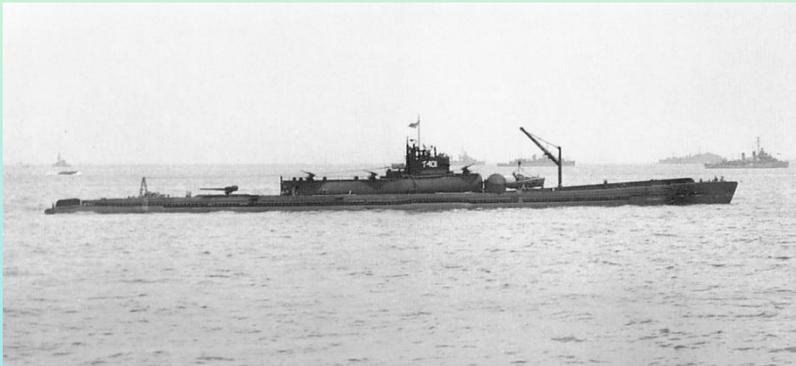
- 1 巨大潜水艦 伊400 (潜水空母)
- 2 特殊潜航艇



VG10-7-2

1 巨大潜水艦 伊400 (潜水空母)

- 全長 122m 全幅 12m(原潜登場までは世界最大の潜水艦)
- 格納塔に折畳式攻撃機「晴嵐」3機を搭載
- 建造開始 1943/1 竣工 1944/12
- パナマ運河奇襲作戦→ウルシー環礁攻撃に変更運用
ウルシーへの前進中に玉音放送、呉帰港中に拿捕
- 米軍により破壊、オアフ島沖に沈む
- 2013年発見 潜水調査も



2 特殊潜航艇

真珠湾内の敵艦攻撃、その他
(5隻中2隻が湾内潜入成功し
魚雷攻撃)

大型潜水艦に搭載されて
作戦地まで輸送





VG10-8

Q8 戦略爆撃(307話)

大東亜戦争間の戦略爆撃：

独のゲルニカ空襲（1937/4/26）、連合国のドレスデン空襲（1945/2/13～）、米軍の東京や日本本土への空襲、日本軍の重慶爆撃

- ・ 南京～漢口～重慶へと首都を移転、1938/12～1941/9にかけて重慶への戦略爆撃
 - ・ 海軍主導（井上成美の提言と云われる。）
 - ・ 新鋭の九七式重爆撃機、九六式陸上攻撃機を主体とする陸海軍航空兵力による長距離進攻を実施
 - ・ 軍事目標に限定したが、悪条件あり住民にも被害が続出、絨毯爆撃も実施と？
無差別爆撃との国際的非難あり（連合国側は、宣伝戦が上手だ！）
 - ・ 不思議なことに東京裁判では問題とされなかった。
（連合国のご都合主義？）

◎戦略爆撃は戦略目的を達し得ない？



VG10-9

Q9 渡洋上陸作戦

日本の敵前上陸作戦

- ・支那事変:第二次上海事変
(陸軍2個師団を坑州湾上陸(1937/8/23))
- ・日米戦開戦劈頭のマレー上陸作戦
(1941/12/8) 成功
- ・ガ島奪回作戦
(一木支隊、川口支隊、第二師団) 何れも失敗

◎ 開戦劈頭までは、赫赫たる戦果を挙げているのだが、その成功の要因を具に検討せずして、米軍にお株を奪われた？

侮蔑？ 制海・制空権の確保 周到な準備 圧倒的な戦力



視点11:日本の軍事組織の弱点は？

- 1 作戦偏重主義 ⇔ 情報軽視、兵站軽視
攻勢・攻撃優先、艦隊撃滅優先⇔作戦目的の喪失
(177話 長蛇を逸したり！)
- 2 現場追認、現地部隊の暴走を止め得ず
- 3 人事:学歴主義、温情主義、積極果敢推奨
戦時抜擢や実績主義なし⇔実績主義、抜擢人事
- 4 強硬論や声望大なる者に引き摺られる傾向大
- 5 攻勢優先主義、精神主義
- 6 科学技術の活用等



VG11-1

Q1 作戦偏重主義 ⇔ (情報軽視)、兵站軽視

兵站軽視(212. 255,274話)

- ・座布団なきインパール作戦(274話)
(兵站に関しては、ジンギスカン作戦(牛による運搬、屠殺して食料に)・僅か三週間の糧秣携行・食料の現地調達が指摘される。)
- ・一方、日本版電撃戦たるマレー作戦では作戦と兵站の吻合宜しく(255話)
- ・戦争末期には太平洋の島々は補給なく孤立自活飢餓状態、玉砕(212話 東奔西走の輸送作戦も虚し！)

◎軽視した訳ではないが、大部隊の作戦では、
兵站が最重要課題であると認識しておらず、
大陸での経験や小部隊での戦闘経験を大部隊の運用に適用した愚



VG11-2

Q1 作戦偏重主義 ⇔ 情報軽視、(兵站軽視)

◎情報軽視等((43,124,157,186,244話)

戦略レベルから戦術レベルまで 情報センス欠如
(思い込み、戦い相手の侮蔑、戦意、能力、企図心etc)

◎暗号解読率

外務省:95% 海軍:70%、陸軍:0.6%

◎MI作戦 日本海軍の攻撃地点までも解明

◎海軍甲事件(1943/4/18)、乙事件(1944/3/31)

◎日本も有能な学生等を集めるも、米国の比ではなかった。

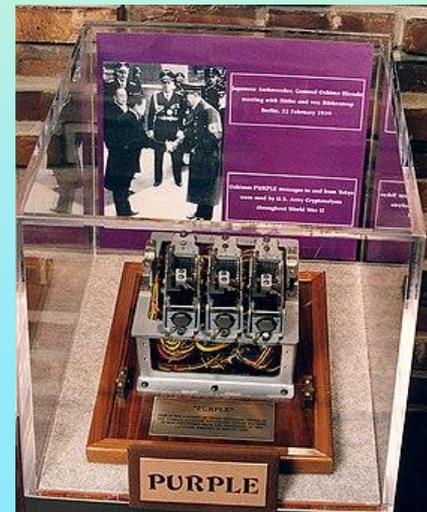
日本文化の研究すらも、

◎防諜態勢は?意識は?

ゾルゲ事件(1941/10/15)はその端的な例か
解読されたことを知らずに使い続けた愚
大島駐独大使の危惧報告無視

米国は防諜に細心の注意

◎マッカーサーの参謀と呼ばれた陸軍将校堀栄三少佐





VG11-3

Q3 攻勢・攻撃優先、艦隊撃滅優先⇔作戦目的の喪失

長蛇を逸したり！（177話）

海軍作戦においては、艦隊決戦を追求する余り、
作戦目的を逸したことがある。悔やまれる！

- ① 真珠湾攻撃(1941/12/8)
 - ② 第一次ソロモン海戦(1947/8/9)
 - ③ 南太平洋海戦(1942/10/26)
 - ④ レイテ沖海戦(1944/10/20)
- 陸軍も作戦目的を明確にせずに作戦し、上級司令部と
隷下部隊間の作戦目的に関する認識の一致なく
作戦する場合多々あり



VG11-4

何故、斯くなりしか!!

1 攻勢優先主義

敵を侮蔑、米軍を支那軍と同等と見做す。

戦意高揚のためのプロパガンダを信じた？

戦術レベルでは宜なるも、戦略レベルでは如何なものか
積極的策により失敗してもそれを許容する風潮・人事

2 教条主義？

◎懲りずに白兵銃剣突撃を繰り返す日本陸軍の愚

日清日露の成功体験

ノモンハンの反省なし(51話)

◎対上陸戦術 水際防御推奨 敵上陸前に砲爆撃により撃滅 (231話)

後にペリリュー島の戦いでの敢闘(中川大佐の指揮統率、
戦訓の活用)

硫黄島、沖縄戦 後退配備、洞窟陣地活用

◎艦隊決戦主義

日本が空母機動部隊、航空攻撃の優位性を(19、263話)実証したにも
拘らず脱却できず



VG11-5

Q3 人事:学歴主義、温情主義、積極果敢推奨

- ◎戦う軍隊のダイナミックな人事とエモーショナル微温的・集団主義的人事
- ◎信賞必罰をしない軍隊：日本
 - ・MI作戦の責任は誰が採ったのか？ ・辻正信参謀の責任は？
 - ・軍中央の命に違反した者の責任追及は？ （支那事変不拡大方針の破綻）
 - ・（満州事変以来の悪弊 独断専行・下克上・幕僚統帥）
 - ・支那派遣軍の南京への独断追撃
 - ・支那事変間においても度々独断専行（対支一撃論奏功せず）
 - ・幕僚統帥頻々足り
 - ・「察すべし」と以心伝心社会 と軍隊
- ◎ 米軍 キンメル大将解任降格退役、ミニッツ少将を司令長官に抜擢
アイゼンハワーも大抜擢、師団長を更迭すること一再ならず
独：将軍から一兵卒へ降任、ロンメルも抜擢、
ソ軍：銃殺刑も
- ◎声望大なる者、権威ある者、強硬論者に屈する弊
 - ・真珠湾奇襲やMI作戦の認可



VG11-5-2

Q3 現場追認、現地部隊の暴走を止め得ず

陸軍の悪弊 現地部隊の独断専行を上級司令部が追認

◎第二次長沙作戦、作戦目的達成よりも敵軍撃滅に狂奔

◎盧溝橋事件、南京への追撃等々随所に現地部隊の独断を止め得ず追認

◎インパール作戦(1944/3/8～7/3)の例

南方軍や方面軍の意図(危険性認識、無理すべきではない)と軍の意図が乖離し、調整されることなく作戦発動

寺内南方軍司令官、河辺方面軍司令官と牟田口中将の認識統一がなかった。

1年を超える作戦準備間に何をしていたのか？

牟田口中将の異常な性格、幕僚の動きにも問題あり

上級指揮官は部下指揮官に意図を正確に理解認識させる必要

察せよではダメ

・インパール作戦中止(?)に関する両将軍(河辺、牟田口)の会談(1944/6/5)

両将共に作戦断念を意識しつつもそれを発言せず「察せよ、察すべし」



VG11-5-2-2

◎南京への追撃戦(1937/11/15)

上海に日本軍が上陸し戦況が好転、参謀本部は作戦地域を限定していたが、
現地10軍は独断で追撃を決心し11/15発動。松井岩根中支那派遣軍司令官は
これを追認した。

◎ 以心伝心、忖度、明察など日本的な意思伝達は疑義を生じる懸念大

◎ 満州事変の独断専行が一種のサクセスストーリーとなった？

結果良ければ全て良しの風潮



VG11-5-3

Q4 人事上の問題

◎信賞必罰をしない軍隊：日本

- ・MI作戦の責任は誰が採ったのか？
- ・辻正信参謀の責任は？
- ・軍中央の命に違反した者の責任追及は？
(支那事変不拡大方針の破綻)
- ・(満州事変以来の悪弊 独断専行・下克上・幕僚統帥)
- ・支那派遣軍の南京への独断追撃
- ・支那事変間においても度々独断専行
(対支一撃論奏功せず)

◎声望大なる者、権威ある者、強硬論者に屈する弊

- ・真珠湾奇襲やMI作戦の認可
- ・そこまで言うならやらせてみよう。(インパール作戦)
-



VG11-6

Q5 科学技術の活用等

日本の優秀な技術（60、64話）

日本技術陣は無能だった訳ではない

- 独のレーダー技術導入（戦後の電子立国の基礎）（284話）
- 酸素魚雷（266話）
- 風船爆弾（82話）
- 航空機（零戦、隼、一〇〇司偵etc）
- 戦艦大和（昭和の三大バカ査定？）
 - 三番艦は未完の世界最大の空母「信濃」（281話）
- 八木アンテナ
- バルパス・バウ
- 原爆開発（73話）

日米の技術力の差は 次VG



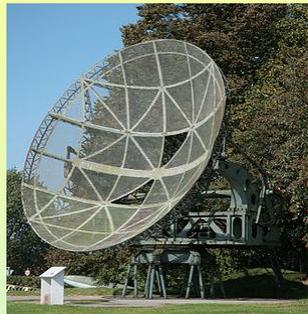
VG11-6-1

日米技術力の差について(60話)

- ①レーダー技術 日本は方位のみ、米軍は方位・距離・高度
重要性の認識度の差？
- ②近接信管(VT) 米軍は真珠湾以後(1942/3)研究、翌年実戦投入
- ③品質管理の差
航空機エンジン(彗星、飛燕)、米軍は大型航空機や戦場機動力向上
軽戦車から重戦車、真空管、ベアリング等
- ④大量生産技術(米国)と職人芸(日本)
互換性ある武器製造
- ⑤設計思想の差
零戦(防弾性能より運動性能)落下傘・救命キット
- ⑥OR手法の開発 対潜水艦作戦 攻撃精度向上
- ⑦暗号解読技術にかける執念 米国は資源と人材を大量投入



VG11-6-2



ウルツブルグ
レーダー



酸素魚雷



零戦

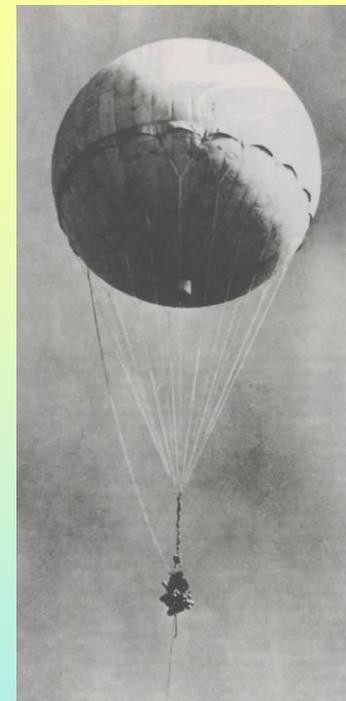


隼

100偵



風船
爆弾





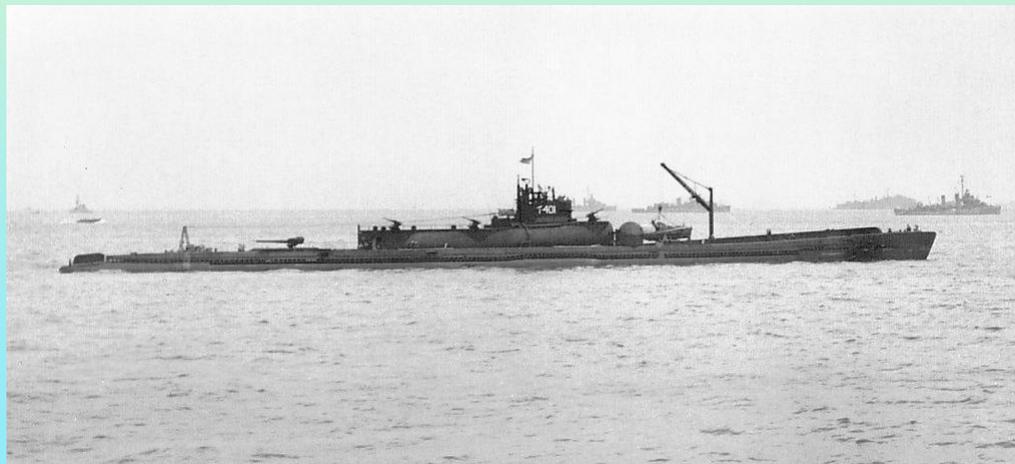
VG11-6-3



戰艦大和



空母信濃



潜水空母(伊400型潜水艦)



特殊潜航艇(甲標的)



視点12: 陸海軍の対立解消し得ず

(94話、205話、277話)

- 1 統帥組織上の問題: 陸海軍の対立を仲裁・調停しうるのは天皇のみ
- 2 陸主海従への不満の鬱積・反発
- 3 興味と関心の差が体質化(陸: 人、国家 海: 技術や艦艇)
- 4 国家予算獲得対立
- 5 仮想敵国の相違
- 6 出師準備と動員、戦争決意の陸軍・決意無き海軍
- 7 建軍の範とした国の差、建軍の経緯の差
- 8 陸軍の政治化、反政治的体質の海軍
- 9 陸軍の暴走を抑止するのが海軍との意識
- 10 現地レベルの協同は比較的良好だが、国家レベルでは相互不信
- 11 国策の方向性を巡る対立
- 12 親独派の多い陸軍と冷ややかな海軍
- 13 陸の長州vs 海の薩摩 の暗闘?



VG12-1

1 統帥組織上の問題: 陸海軍の対立を仲裁・調停しうるのは天皇のみ

- ・その権能を果たすべきではないとの意識(そのように育てられた)
- ・自己組織優先主義 大局観の欠如
- ・統帥組織の一元化模索 なれど、実現せず
- ・異常なほどの相互不信

- 陸海軍間の軍務調整機関として「元帥府」「軍事参議院」
元帥府(1898)は天皇の軍事上の最高顧問
明治期には適切な補佐、
昭和に入ると長老としての権威しかなく、元帥たる宮様が
統帥部長に就任し、元帥府の実態はなくなった。
 - ・ 軍事参議院(1903)には機務は知らされず

2 政治のリーダーシップは？

政治家の容喙を許さずは陸海軍共に一致



VG12-2

3 作戦思想(構想)の調整不能

溝を埋め得ず、文言妥協で決着⇒悔いを千載に残した

4 海軍あって国家なしとの非難すらも

- * 天皇の戦時間の大局観は端倪すべき(時に叱責、懸念を表明)
- * 英国: 三軍統合調整機関として参謀総長会議
米国: 英国との軍事部門における密接な戦略調整の関係もあり、
1942/7 統合参謀本部設置



視点13: 政略(軍事力以外の分野)は?

- 総動員体制(国家総力戦体制)(297話)
- 大東亜共栄圏構想(298話)
- 国際情勢分析と軍事力以外の力の活用
関係国への働き掛け 蒋介石に比すれば絶無
(11話 宋美齡、270話蒋介石、292話実はソ連と戦っていた)
謀略放送 効果の程は不明なるも
特務機関を作戦に寄与させることを目的に運用したのだが、..
- * 軍政は適切だったのか
現地の実情にマッチング? 軍事的要求が大?
- * 軍事が外交をリード
軍の政治化 (95話 帝国陸軍は何故政治化したのか?)



VG13-1

Q1 総動員体制

- 1 国家総動員法(1938/3/24)成立・翌年施行(#1近衛内閣)
前史 国家総動員計画設定処務要綱案(1929/4)の発展
軍需工業動員法(81918/5/7)は本法成立により廃止
 - 2 所管部局 国務院→資源局→企画院
 - 3 平時規定
国民登録制度、技術者の養成、物資保有義務、事業計画の設定・演練
試験研究命令、事業の助成等
 - 4 戦時規定
国民の徴用、国民の協力、労務統制、労働争議の制限・禁止
物資統制、貿易統制、物資の管理収用、金融統制、資金統制 等々
 - 5 第二次大戦期における米国の動員
産業動員体制整備、保存命令、在庫統制・制限命令、労働争議制限、労働動員
等々
- * 日米共に似たような政策実施



VG13-2

Q 2 大東亜共栄圏構想の崩壊(298話)

- 萌芽 1938/11/3 # 1 近衛内閣 東亜新秩序声明(# 2声明)
支那事変解決に苦慮 首都重慶移転
- 国策としての決定
基本国策要綱 (1940/7/26)
大東亜新秩序 二本柱 (南方経済政策、支那事変の解決)
- 具体化の動き
大東亜省、大東亜会議、大東亜宣言
- 崩壊の原因
準備不足
関係国の理解・協力不十分
国内の足並み乱れ



VG13-3

Q 3 軍政（占領地行政）は適切だったのか？

1 軍政に関する基本的政策

「南方占領地行政実施要領」（1941/11/20 連絡会議）

重要国防資源の急速獲得と作戦軍の自活
残存統治機構の活用、民族的慣行の尊重

2 陸海軍の担任

陸軍：香港、比、馬、ボルネオ、ビルマ、蘭印（スマトラ、ジャワ）

海軍：陸軍の外郭要地

3 諸相

①蘭印：歓迎⇔比：日本は侵略者と 他はその中間

②蘭印成功の要因：アジア主義的同質性原理による軍政

③比：一定の自治、将来的な独立保証、面従腹背

④占領地の独立 当初明示せず、政略指導大綱(1943/5末)
独立承認、一部は日本編入

⑤欧米植民地からの解放は二次目的だったとの批判あり

⑥方針等の決定時期遅延、他の機関の関与希薄

次図 参考



VG13-4

◎ 参考

(1) 民族自決と

大西洋憲章(1941/8/14)・大東亜宣言(1943/11/6)

連合国：民族自決唱えず、被占領下の欧州のみに適用とする
案但し異議が出て曖昧なまま

日本：植民地解放、民族自決を宣言
一部を日本に編入しており理念の徹底に問題あり

(2) 軍政に関して

日本が本格的に軍政に取り組んだのは、対米英戦開始後

- ・遅く、準備不足は否めず
- ・各国の実情にマッチング？
- ・軍以外のノウハウの活用は？
- ・長期的侵略意図なしの証左



VG13-5

Q 4 軍特に陸軍の政治化の要因

- 陸軍の特性
- 総力戦時代における国家態勢に不満
- 日清・日露権益侵害には反発
- 社稷を思わぬ政治家に対する不満
- 独善
- 革新風潮、各種勉強会等への積極参加
- 統帥権独立等の悪用に気づく
- 軍事専門家たるの意見尊重要望
- 大正デモクラシーの影響
- 国内混乱時における軍の秩序維持機能に目覚
- 安全保障は国家の最優先事項との意識
- 国民領導は軍の使命
- 正しきことは天聴に達する
- 直接的な手段優先



視点14:国家のリーダー

- 能吏は育てられても、リーダーは育てられない日本の風土
治世(平時)の能臣、乱世の雄
リーダーを必要としない日本社会 (平穏な農耕社会)か？
- 日本にヒットラー・ムツソリーニ・スターリンなく、
ルーズベルトもチャーチルも居ない。

されど国策が自然に決まる。
マスコミ、大衆(世論)、軍部、政治家が
自然にある方向に収斂していく不可思議
- 大所・高所からの判断が出来ぬ体質
和の集団、集団主義
- リーダーは育てられるか、育てるには
- 何に学ぶか 歴史に学ぶ、自学研鑽、修羅場を追体験



結論 (参考事項)

米戦略家ジェフリー・レコードが
摘出した日米戦決定過程の教訓 (141話)

- ①「恐怖心」と「プライド」
- ②潜在敵国の文化、歴史への造詣
- ③牽制される側の心理
- ④戦略に沿った軍事作戦
- ⑤戦争行為としての経済制裁
- ⑥危険な精神性重視
- ⑦戦争宿命論の呪縛



結論

- ① 日本人は戦略的思考が苦手？
- ② リーダーシップに難
- ③ 大部隊の戦略に過誤多し、第一線部隊は勇戦敢闘
- ④ マ元帥回顧録 日本の将校は上級ほど質が落ちる
- ⑤ 日本的意思決定法は問題
- ⑥ 米国や蒋介石にしてやられた感あるも、ミスや誤判断も
- ⑦ 日本(人)の弱点を知って、それを克服
日本的システムの弱点是正 ドラスティックな改革至難
(決定事項の修正出来ない！)
- ⑧ 日本(人)は優秀だし、弱点克服により飛躍可能(自信を持つべし！)



御静聴有難う御座いました

URL: <http://yamateru.stars.ne.jp/>

Email: yamashita.teruo.age73@gmail.com

(公財)大東亜慰霊協を宜しくお願い致します。

<https://www.ireikyou.com/>

































































